

B型肝炎

平成 28 年 10 月から、定期予防接種に追加されました。

B型肝炎ワクチン

☆不活化ワクチンです。

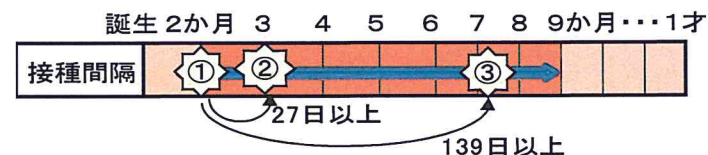
対象年齢 1 歳の誕生日前日まで（平成 28 年 4 月 1 日以降生まれの乳児対象）

接種回数 3 回

接種間隔 1 回目：標準的には生後 2 か月から

2 回目：1 回目の接種から 27 日（4 週間）以上あけて接種

3 回目：1 回目の接種から 139 日（20 週間）以上あけて接種



ワクチンを接種することで、体の中に B 型肝炎ウイルスへの抵抗力（免疫）ができます。

免疫ができることで、一過性の肝炎を予防できるだけでなく、キャリアになることを予防でき、周りの人への感染も防ぐことができます。

＊予防接種を受けても、お子さんの体質や体調によって免疫ができないことがあります。

※母子感染予防のために抗 HBs 人免疫グロブリンと併用して B 型肝炎ワクチンを受ける場合は定期接種の対象外となります。

B型肝炎とは？

B 型肝炎ウイルスの感染により起こる肝臓の病気です。

B 型肝炎ウイルスへの感染は、一過性の感染で終わる場合と、そのまま感染している状態が続いてしまう場合（この状態をキャリアといいます）があります。キャリアになると慢性肝炎になることがあり、そのうち一部の人では肝硬変や肝がんなど命に関わる病気を引き起こすこともあります。

副反応

接種部位の局所反応として紅斑、はれ、しこり、痛みを感じたりすることがあります。全身的な副反応として、発熱、易刺激性なども認められます。また、いつもより機嫌が悪かったり、ぐずったり、眠そうにすることがあります。重大な副反応としては、極めてまれにアナフィラキシー、急性散在性脳脊髄炎などの病気にかかることがあるといわれています。